

ようこそ校長室へ！

No. 56

令和6年3月8日

発行：貝塚敦

に にこにこ笑顔で

い いつもみんなで

つ 紡ぎ繋げる心で

に 日本一をめざすのだ

手袋に包まれたぬくもりと優しさと 〈学校に届けられた一通の手紙〉

令和6年3月5日、207名の卒業生がこの学び舎を巣立っていきました。

ここ数年、コロナ禍で様々な制約のあった卒業証書授与式でしたが、今年度は、卒業生・保護者・在校生・来賓・教職員、総勢約600の参列の中、フルバージョンの式を実施することができました。

卒業式に臨んだ全校生徒の態度はとても立派で、卒業生合唱「さくら」のフィナーレとともに厳粛で感動的な卒業式となりました。あらためて、卒業を心からお祝いするとともに、特に卒業生保護者のこれまでの当校の教育活動へのご理解ご協力に、深く感謝申し上げます。

さて、卒業式当日の朝、学校の郵便受けに「新津第二中学校 校長先生へ」と記した、匿名のお手紙が投函されていました。

下記は、その内容の原文です。



突然ではありますが、新津第二中学校の生徒さんへお礼を伝えたく、手紙を書きました。

先月の2月16日（金）の時の事です。

小学3年生の息子が、夕方16時頃、荻川駅近くの線路沿いにある、そろばん教室の近くで、お友達がそろばんを終わるのを待っていた時のことです。その日の夕方はとても寒く冷え込んでいました。

その時、通りがかった中学生の男の子が、息子を見て話しかけてきたそうです。

「ここで何しているの？」

「友達がそろばん終わるのを待っているの」

一人で待っている息子がとても寒そうに見えたようで、中学生の男の子は

「今日はとても寒いから、風邪をひかないように手袋をあげるよ。ボロボロで少し穴も空いているけど・・・。ボロボロだから捨てていいからね。」と、その男の子は、自分のしていた手袋を息子にくれたのです。

その中学生の男の子はすぐ立ち去ってしまったそうで、突然の出来事に息子はお礼も伝えられずに帰宅しました。

「ぼく、すごくうれしかった！手がとても冷たかったから穴が空いていても温かかったよ。でも、ありがとうって言えなかった。」

と家に帰ってきてから話をしてくれました。捨てていいと言われた手袋ですが、空いていた穴を全部縫って大切に使用してもらっています。

息子を気遣い手袋をくれた中学生の男の子に、とても感謝しています。そして、たった一言「ありがとう」と言えなかった息子は、お礼が伝えられなかったことをとても後悔しています。

この2日間雪が降って、息子が、「お兄ちゃん手袋なくて寒くないかなあ、困ってないかなあ」と心配しているので手紙を書かせていただきました。

息子はもうその中学校の男の子の顔を覚えていません。唯一わかっているのは、新津第二中学校の生徒さんだということです。

中学生の男の子が見ず知らずの生徒に手袋をくれるなんて、身体を気遣ってくれるなんて、そうそうできることではありません。思いやりのある、優しくて行動力のある、こんなすばらしい生徒さんがいる新津第二中学校は本当にすごいです。息子も人の優しさに触れて息子なりに思うところがあって、少し成長しました。私たち家族にとっては、とても心温まる出来事で、感謝の気持ちでいっぱいです。

手紙を書こうかどうか迷ったのですが、少しでも知ってもらえたら、人の思いやりの和や輪はどんどんつながっていくと、そして、それは巡り巡って自分に返ってくると、息子も中学生になる頃には分かると思います。

本当にありがとうございました。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

一読して、目頭が熱くなる思いでした。

新津二中の生徒は、みんないい子だと思っています。もちろん、この手紙の生徒以外にもやさしい子はたくさんいると思いますが、あらためてこのようなエピソードに触れると、本当に心が洗われる思いです。

生徒には、常日頃から、人と「関わる」力を身に付けてほしいと繰り返し訴えてきました。誰にでも公正・公平にやさしく親切に接するということは、自分の成長のみならず、関わった相手の成長をももたらすものだと、私自身あらためて思い知らされました。

新津第二中学校に元気と勇気を与えてくれたこの一通の手紙は、どんな美辞麗句よりも、「おめでとう」という声かけの数々よりも、3年生の卒業に大きな花を添えてくれたようです。

手袋をもらった小学校3年生の君へ。3年後の中学校への入学を楽しみに待っているよ。それまでもっともっといい学校になるように頑張るよ。そして、君以上に、私は「ありがとう」と君に伝えたい思いでいっぱいだよ。